

ゆうのゆう後援会だより

後援会呼びかけ人から
銭湯があるまち

インド研修

「第25回アジア太平洋ソーシャル会議」に参加して

No.26

2019.11

News & Topics

- ・台風21号 被害報告
- ・救命措置を経験して
- ・2018年クリスマス会
- ・ドイツボランティアから



台風21号 被害報告



轟音とともにプール大の屋根（鉄骨）が落下。二車線道路を全面ふさいでしまうという信じられない光景を目の前にして呆然としました。電線を切って落下したため、停電も発生。暴風が吹き荒れるなか、いったいこれからどうすればいいのかと途方に暮れました…。

先般の台風19号で東日本を中心に大きな被害が出ていますが、昨年9月4日、大阪を襲った台風21号では、「社会福祉法人ゆうのゆう」、「NPO法人W・I・N・G 一路をはこぶ」も大きな被害を受けました。

屋根が落下した「デーセンター夢飛行」（大阪市西成区・定員31名）ではその後、大量の雨漏りが発生。「デーセンター音・on」（港区・定員15名）の送迎車はガラスが割れ、走れません。「フリースペース“Tamariba”」（西成区）のテントも落下しました。利用者さんは午前で帰宅しており、スタッフを含めけ人がいなかったのは幸いでしたが、その日の夜から復旧に向け、怒涛の日々が続くこととなりました。

屋根の応急修理では業者も大きなブルーシートが品薄のため手に入らず、すがったのは岩手のNPO「響生」（ひびき）さん。東日本大震災での支援以来互に行き来する関係でした。すぐにブルーシートを宅急便で送ってくださり感謝感激しました。

地元にも頼りました。地元西成の岸里地域活動協議会を通じて、福祉会館を貸していただきました。普段はお葬式などに利用される同館を年末までお借りすることができ、利用者さんは計3ヶ所に分かれて活動を継続しました。

ただその間も施設の雨漏りはどんどん拡大しました。心底、雨を恨みました。雨の夜は泊まり込みで雨漏り箇所にはバケツを置きましたが、その場所は日を追うごとに広がっていきます。



夜中、床に落ち始める新しい雨音を聞く度に、「またか…」と気持ちが沈みます。紙オムツを屋根に貼り付けたりもするのですが、水分を吸って重くなったオムツがドサッと音を立てて落ちる様は、自身の落ち込む様と重なりました。

多くの方々の応援、ご支援をいただき、通常活動を再開したのはそれから約2ヶ月後。地震や台風など大規模災害時、平穏な日常が当たり前ではないことに触れる言葉が巷にはあふれますが、「雨漏りのない建物にすることは、思っているほど当たり前のことではないのだ」と、まさしくその感を強めました。今回の関東・甲信越等の被災者の途方に暮れる声がテレビから聞こえる度、その声は痛みをもって胸の奥に染み込んできます。

（ゆうのゆう 大槻 瑞文）



救命措置を経験して

坂山 克也
グループホーム「ことのほ」施設長

◆ 当日の様子

2019年7月8日（月）、朝の出勤時です。最寄り駅に向かって歩いていたら、向かいから歩いてこられた50～60代くらいの男性が急に“ウッ”という声をあげたと同時に胸を押さえ頭から私の足元に倒れこみました。

とっさに目の前にいた男性に声をかけ、119への救急要請を依頼しました。うつぶせに倒れこんだ男性を仰向けにして、呼びかけると“ウーッ”と唸った後に大きく胸をあげゆっくりと力が抜けていきそのまま胸の動きが停止しました。

「これは心停止だ」と直感。周りの通行人に声をかけAEDを要請すると同時に胸骨圧迫を始めました。お二人の方が駅と保育園からAEDをもってきてくださいました。到着と同時に一人の方が“マッサージ変わります”と仰っていただけたので私はAEDの操作に移りました。

AEDが自動で心停止かどうかを解析。「電気ショックが必要」と診断が出たので、周囲の安全を確認しショックボタンを押しました。電気ショックで一瞬、体が飛びあがったかと思うと、意識がなかった男性が“ウーッ”と苦しそうな声を出し始めました。それとほぼ同時に救急車が到着。救急隊員に状況と経過を説明し、男性は搬送されました。後日救急隊員より男性のその後を少し教えていただけました。救命措置によって一度止まった心臓が動いた、命に別状はないということでした。

◆ 自身の心境

ちょうど約1ヶ月ほど前に、消防署にて救命講習を受講していました。私の中でその講習の内容がかなり鮮明だったこともあり、自身が思っていたよりもずっと冷静に対応することができました。

それでも、目の前にいる人が心臓が止まっているとわかり、マッサージをしなければこの人の命が助からないとわかったとき無我夢中でした。電気ショックの後、男性から声が出た瞬間は、手伝ってくれた周囲の方々に、そして何よりも息を吹き返してくれた男性に感謝の気持ちでいっぱいでした。

今回のケースに立ち会うまで、まさか自身が心肺蘇生を行うことなんてないだろうと思っていました。しかし、他人ごとではないこと、何時起こるかかわからないことなのだという認識が強くなったように思います。二度と経験したくないケースでしたが、今後同じようなケースに立ち会った時には、今回よりも冷静に、よりの確な対応ができるように思います。

2018年クリスマス会

4月の入所式、7月の車イスダンス発表会と並ぶ大イベント、クリスマス会は例年通り、西成区民センター大ホールで開催され、約200人が参加しました。(12月12日)

4つの施設の利用者さん、ご家族、スタッフが1ヶ所に集まる、「ゆうのゆう」にとっては一大イベントです。今回は、各施設対抗のゲーム大会。煙突に模した箱の中にボールを投げ入れ、大いに盛り上がりました。

また今年は、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館のヴェルナー・ケーラー総領事をお招きしました。クリスマスプレゼント交換会の際は、サンタクロースに扮して配布役も。終了後は、ボランティア青年を含むドイツ人スタッフらとしばらく歓談し、激励くださいました。



ドイツ人ボランティアたちから

ゆうのゆうでは2010年から毎年、ドイツのNPO団体を通じてドイツ青年ボランティアの受け入れを続けています。これまでにゆうのゆうの活動の経験者は30人を数えます。

彼らは9月～翌8月までの1年間、各施設で重症心身障害者の支援を日本人スタッフ同様に経験します。ついこの間まで高校生だった18～20歳だった青年たち。ほとんど日本語が分からない彼らが、1年の活動を通じて大きく成長し帰国していく姿は、日本人スタッフにも良い影響を与えています。

今年で受け入れ10年目。今夏も2人のドイツ青年がやってきました。2人から後援会の皆さんにご挨拶です。



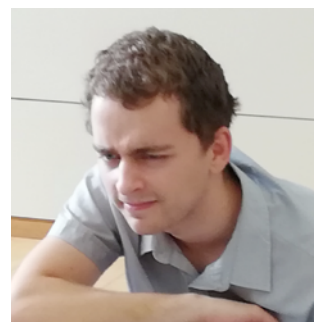
アレク（デーセンター夢飛行）

私達が大阪で働き始めて、1ヵ月が経ちました。先に2ヶ月間の実習を終えていたにも関わらず、初日はとても緊張しました。ろくに働いた経験もなく、間違ったことをしないか怖かったです。

デーセンター夢飛行で働けて、この上なく幸せです。私が、いつもおかしな日本語でじたばたしていても、皆さんとても親切に助けてくれます。そのことは、誰かを傷つけるのではないかという私の恐怖心を追い払ってくれます。

1ヶ月が経ち、今では、利用者さんと飲食をしたり、何人かの利用者さんを抱え上げたりすることができるようになりました。心から皆さんとの仕事を楽しんでします。

この短い期間に、たくさんの感謝すべきことを学びました。



マリオ（デーセンター夢飛行）

私はデーセンターモモの家で1ヶ月程度働いていますが、とても楽しいです。スタッフの皆さんは、とてもいい人で、柔軟、そして公私とも、いろんな場面で私を助けてくれます。

はじめのうちは、やっていることが間違っていないかととても不安でした。でも今は自信を持って、自分の仕事をすることができます。時には、利用者さんと一緒に、歌ったり、絵を描いたり、工作をしたり、食事をしたりして楽しんでします。あるときは、私が大好きなドラえもんと一緒に見ました。

(原文英語。訳 岡野 義弘)

東京の下町で

銭湯があるまち

小西 威史（後援会呼びかけ人）
ソーシャル&エコ・マガジン月刊「ソトコト」 副編集長

雑 誌の編集の仕事をしていると、時代の空気感を感じることがあります。

東 京の下町で、空き店舗が増えた商店街を元気にするプロジェクトを取材していたときのことです。私と同じようにそのプロジェクトに興味をもち、話を聞きにきていた若者と出会いました。

その若者は一人暮らしで、下町で賃貸物件を探している最中でした。何店かの不動産店をまわったそうですが、部屋探しの条件は「近くにおいしい定食屋と銭湯、商店街や地元スーパーがあること」だと教えてくれました。

近所においしい定食屋さんや銭湯がある暮らし。たしかに楽しそうで理想的だなと、深くうなずきながら、その条件が時代を象徴しているように感じました。

一つはコミュニティを求める気持ちです。1980年代、90年代と、日本では都市化、核家族化、単身化が進み、他人とコミュニケーションをとらなくても暮らせるようになりました。その一方で、2000年代以降は終身雇用の崩壊や年金制度の破綻が見え隠れし始め、大きな自然災害を経験し、社会の基盤は意外ともろく、いざというとき、制度によるセーフティネットはあてにできないと感じるようにもなりました。

頼れるのは、結局は互いの助け合いや思いやりで、それができるコミュニティは自分たちでつくるしかない、という肌感覚です。

◆ 心地よさを分かちあえる場所。

東京では今、銭湯が静かなブームです。20代の銭湯絵師が注目されたり、30代、40代で銭湯を継いだ経営者が脱衣所や浴室を開放して落語や音楽イベントを開いたりしています。台湾の観光協会と連携して、「台湾風銭湯」を開催した銭湯もありました。人気の銭湯を巡る「バスツアー」企画もあるほどです。外国人観光客も銭湯に来るようになり、英語で書かれた銭湯マナーの解説ポスターが貼られたりしています。

子どもからお年寄りまで、果ては国籍の違いも超えて人が集える場所を大切にし、自分もそこに参加したいという気持ちが若い世代のなかで強まっています。銭湯の帰りに、一杯飲める飲み屋さんや定食屋さんがあるようなまちを「素敵」だと感じ、そんな場所を求める気持ちです。仕事以外の顔見知りが増え、いざというときに助け合える関係が生まれていきます。

そもそも、昔ながらの銭湯や商店街がつぶれてしまい、チェーン店ばかりの大型ショッピングモール、スーパー銭湯しかない社会を想像してみてください。きっとそれは単一で弱く、つまらない社会だと思います。

これからの超高齢化社会に向け、国としては地域のことは地域でめんどろを見てもらおうという「地域包括ケア」の仕組みづくりを進めるようですが、銭湯や商店街は、まちの福祉的機能も果たす場所になるはずです。高齢者が働ける場所にもなります。

冒頭で紹介した若者は、ただ、暮らしやすさで「定食屋、銭湯、商店街」を挙げただけかもしれません。でも、実は的確に楽しい社会、強い未来をつくるための条件を挙げたのではないかと感じるのです。



静かなブームという銭湯が町にある意味は…



小西 威史

アジア太平洋ソーシャル会議・APSWC2019

「第25回アジア太平洋ソーシャル会議」に参加して

神山 裕司
デーセンター夢飛行スタッフ

9月17日から20日までの4日間、インド共和国カルナータ州バンガロール市で開催された「アジア太平洋ソーシャル会議・APSWC2019」に参加しました。

テーマは、「平等な社会に向けたソーシャルワーク・パートナーシップーアジア太平洋の視点」。アジア太平洋地域の国々で活躍しているソーシャルワーカー、研究者、大学教授、行政・政策立案者が参加しており、テーマに沿って発表、意見交換して情報を共有する場となっていました。内容は、子供、女性、高齢者、人権問題、貧困問題、文化的な多様性や社会政策など様々でした。中には先住民についての発表もあり、日本からはアイヌについての話もありました。



会議の様子

また会議とは別に地元クライスト大学院生たちとの交流会に参加しました。互いの国が抱えている社会問題や文化の違い、仕事について話しました。彼女たちは日本の自殺者数と引きこもり問題について疑問を持ち、理解し難い様子でした。

1人の学生は、コミュニティセンターに就職が決まっており、スラム街に住む人々の健康状態をチェックするそうです。スラム街の問題は深刻で、特に衛生面でひどい状態だと説明してくれました。彼女たちの意欲的な姿勢が印象的で、抱えている問題は違うかもしれませんが、理解しあうことの大切さに気付かされました。



クライスト大学の院生と交流

同会議への参加者のほとんどが発展途上国からで、彼らが抱えている社会問題は日本と比べればほとんどが別次元でした。個人的には人身売買、少女の早期結婚や子供たちが教育を受けられず働かされている現状の話に胸が痛みました。より良い社会を実現するためにどう変えていくべきか。実際に生の声を聞き、彼らがより良い社会を作りあげたいという熱意がひしひしと伝わり、社会を変えていきたいという気持ちを声に出すことの積極性を見習うべきだと感じました。

ソーシャルワーカーのプロフェッショナルたちが意見交換をしている所を間近で聞け、有意義な研修となりました。私は大学で国際文化を学んだ後、何も知らない福祉の仕事に飛び込み、右往左往で4年目を迎えています。しかし、自身が学んだことと福祉の課題が密接に結びついていること、そのことに真剣に取り組む世界各国のソーシャルワーカーたちの存在を知ったことは大きな財産です。どのようにすれば、今回の体験を生かすことができるのか。今の自身の仕事や取り組みをもう一度見直し、頑張りたいと思います。



日本からの参加者の皆さんと

会計報告

会員の皆様、毎年の会費をありがとうございます。

2018年度	2018年4月1日～2019年3月31日	
	収入	支出
年会費	1,161,528 円	事務費 18,104 円
寄付	1,223,511 円	後援会だより デザイン、印刷費等 109,170 円
預金利子	558 円	振替手数料 1,512 円
合計	2,385,597 円	合計 128,786 円
		収支差額 2,256,811 円
前期繰越金	10,705,708 円	
		次期繰越金 12,962,519 円

今号で報告のありました通り、デーセンター夢飛行が台風で大きな被害を受けました。
現在、新築・移転の計画が進んでおり、2019年度は後援会よりゆうのゆうに対して800万円の寄付を計画しています。
また、新規後援会員獲得のためのパンフレットも作成を予定しています。

後援会員継続リスト

ご継続ありがとうございました！（敬称略）

◆ 2018年度 継続
万代義彦 梅本哲男 小林裕子 鈴木友治 渡辺祐子 堀田治美 山口敦子 大井攝子 岩本和美 西川明子 沖村諭孝 中光治 山口勝蔵 井木真知 山本敏行 安田ひとみ 勝山裕子 宮本恭子 中山茂 田中光代 井岡和美 榊原信之 平井毅 前堂則子 筒井恵美子 花岡洋二 森江行雄 日南潤子 山成嘉代子 三島隆一郎 尾谷孝子 神崎修 森岡新 長沼奈緒子 山本明美 中橋弘晃 原田啓司 西田フミ子 今中正己 太田晴美 間處史蔵 原田進 竹林典子 林均（有）ウェルビー 松井延子 佐藤美也子 岩藤博明 黒瀬紀久子 青木康 森葉子 高野繁 高野郁子 迫田順子 原田浩 安田邦夫 杉本マリ 田邊秋子 小野幸子 玉置敦子 磯村由季 鶴田久美 真田政稔 北川仁美 松本素子 神田美穂 古野宗代子 真鍋光子 岩本和子 魚井昭彦 神崎真理子 勝川勝夫 伊藤真美 亀井浩司 松村華代 金本京子 田代裕美子 泉建設(株) 工藤ひとみ 龍昌子 三井由利子 楠本智恵 奥津矩男 武内計二 梅本庸子 仲地弘 菅洋子 太田徳子 貫野旬子 吉村英子 高津由之 橋田恵美子 勝山欣哉 進藤多代 後藤逸郎 齊藤治 島森さみ子 (株)パオンメディカル／松井公一 嶋恭加 高井靖明 木戸京子 天野真紀子 伊森雅彦 岡本宏美 上田久子 田川香 瀬戸恵利子 友田洋子 竹本歯科医院／竹本博文 溝渕啓子 佐藤裕英 佐藤温子 佐藤由希 南部信子 吉岡建設(株) 吉岡建設(株)／山本裕信 橋田友美 岩戸美津江 斎藤雅子 山中美也子 加藤ヨーセツ(株)／加藤世里子 伊藤紘 伊藤佳代 川辺美代子 岡田満喜子 岡本潤和 吉田肇 今宿幸男 酒井伸子 (有)イングス／光安寿三郎 高知富榮 萱野加津夫 大井知子 山下淑子 橋田國身 松本薫 山崎康子 今柳田智佳子 光野濱子 五味侑子 安田規子 松本興子 田代裕子 匿名希望 (5名連名) 歌門善一 齊藤医院／齊藤真弓 金澤真理子 橋田奈穂 迎千咲子 石原郁子 清水洋子 田中保治 村山龍一郎 村山繁樹 南部由加里 神童美代子

◆ 2019年度 継続
田中光代 有尾克ひこ 有尾かほる 厨達夫 安藤まゆみ 山川瑠美 山地春美 山崎陽子 山崎正則 藤永淳二 藤永芳子 鈴木信哉 古田幸代 小林久子 桑原雅代 堀政治 筒井恵美子 朝倉裕子 細野悦子 野田比奈 前川裕子 岡田和子 西野茂 南部謙二 畑まみ 山本敏行 村野知子 堀本京子 尾谷富美子 山地雄平 飯田美紀子 大宮景子 殖栗美和子 出野美佐子 小西頼子 永和信用金庫山王

支店 福島和子 匿名(1名) 上田恵子 森真理子 太田景子 永野明秀 山中富美男 小屋秀二 石川典子 今里政義 小林裕子 鈴木亜紀 奥野温子 山城喜美子 宮部秀和 万代義彦 篠田富子 三井忠 安田由美子 木村朋毅 福田正人 長谷川幸子 辻優 有尾祐彦 有尾則彦 山田正雄 廣本三枝子 井浪洋夫 藪内資子 大槻文恵 青木政憲 小西孝子 梅本美知子 松村華代 平井義丸 村山龍一郎 村山繁樹 山口留美子 村田紀子 まや法律事務所／梁英子 岸桂子 前堂則子 宮本恭子 西川明子 木立和子 榊原信之 遠田順子 黒木浩二 大井攝子 堀田治美 中道順子 井木真知 長沼奈緒子 渡辺祐子 岩本和美 森公子 沖村諭孝 近江愛子 橋田龍志 森江行雄 神崎修 今中正己 西田フミ子 上田富美子 三島隆一郎 森下雅弘 尾谷孝子 中山茂 山口敦子 中橋弘晃 小川陽清 森岡新 山本明美 高井靖明 花岡洋二 原田啓司 川谷圭子 ハートフル ライフ交通(株) 太田晴美 玉置敦子 磯村由季 佐藤美也子 黒瀬紀久子 森葉子 迫田順子 青木康 (有)ウェルビー 松本素子 竹林典子 松井延子 高野繁 林均 鶴田久美 常松由起子 岩藤博明 田邊秋子

ご支援よろしく願います！（敬称略）

◆ 2018年度 新規
上田富美子 小林葉子 若松裕子 千葉淑子 森下雅弘

ご寄付・寄贈いただきました！（敬称略）

◆ 2018年度 寄付
西優子 迫田順子 堤真也／秋山実代／有田衣澄／李素珍／大谷裕子／風間今日子／楠田茜／蔵内由紀子／佐藤のり子／杉山万里子／高瀬俊彦／高橋紀如／谷香実／中島弘貴／西土幸秀／坂東弘子／星信孝／星朋子／堀田知佳／堀田雄大 (20名連名) 菅野真弓
◆ 2019年度 寄付
西優子 菅野真弓 西郷要介

退会。長年のご支援ありがとうございました！（敬称略）

◆ 2018年度 退会
高橋久子 高橋満穂 野島嘉子 北川仁美 中東妙子 楠本恵亮 安田規子 山崎圭三
◆ 2019年度 退会
松尾浩子 秋田正信

会員拡大へご協力を！

日頃より後援会活動へのご協力誠にありがとうございます。

後援会員は発足当初から実に1000人を超え、毎月1万円の寄付を振り込んでいただく会員さん、学生時代の同窓会の幹事をして、その残金を皆さんに了解を得て寄せてくださる方、利用者さんの逝去に伴って寄付されるご家族の方など多くの皆さんのご理解によって活動が支えられています。

しかし、一方で会員の逝去等に伴って全体として会員数は減少傾向にあります。後援会活動の趣旨に賛同いただけるお友達、お知り合いをぜひ紹介ください。

「会員になってくれそうだけど？」という方がおられましたら、事務局（06-6656-1280）までご一報ください。資料、申込書等送らせていただきます。

会員拡大へぜひご協力をお願い申し上げます。

「ゆうのゆう」後援会の会員を募集しています

重症心身障害者の地域生活を支える活動を支援しようと設立されました。ゆうのゆうの運営を側面から支援するほか、重症心身障害者の現状、社会活動の大切さを広く社会に訴え、社会的支援の実現を図ります。

年会費 1 口

個人会員：3,000 円、法人（団体）会員：10,000 円

振込先

郵便振替口座：00900-4-157766
「夢飛行・モモの家・ゆうのゆう・機関車」後援会

お問合せ先

「ゆうのゆう」後援会事務局まで
TEL：06-6656-1280 Eメール：info@yourwing.org

後援会呼びかけ人

犬伏 一人（読売新聞論説委員）	小西 威史（月刊「ソコト」副編集長）	富田 佳志（朝日新聞記者）
羽柴 修（弁護士）	堀内 正美（俳優）	増田 耕一（元毎日新聞東京本社代表）
松本 賢志（時事通信記者）	山沖 之彦（プロ野球解説者）	梁英子【ヤンヨンジャ】（弁護士）

編集後記

我が目、我が耳を疑いました。西成区地域福祉計画に「多様な主体が協働のもと地域の福祉活動に取り組み、災害時には福祉関係者や事業者、学校との連携を進める」とあります。昨年の台風で施設が大きな被害を受けたたけ、大阪市に被害を説明し、区民センターや、廃校になった小学校の一時的利用を打診しましたが、「前例がない」「管理は別の部署なので」と蹴されました。めんどろなことは引き受けないというお役人の本領発揮は災害時も同様と意外とも感じませんでした。福祉計画の文言には、よくもまあ書けるもんだと。自立生活支援調整協議会で計画に対して意見を求められたので、「仏作って魂を入れずでは駄目ですよねぇ」と皮肉を言ったつもりが、担当者は「そうですね！」。そのポジティブさがなぜ本番に出ない!?（ズ）

ゆうのゆう後援会だより No.26

2019 年 11 月発行

発行人 / 「ゆうのゆう」後援会

〒557-0042 大阪市西成区岸里東1の5の25

TEL：06-6656-1280 Eメール：info@yourwing.org

ホームページ：http://www.yourwing.org